

夜間中学シンポジウム in 岡山(概要)

1 ねらい

令和7年4月に開設される「岡山市立夜間中学」について、市民のみなさんに理解を深めていただくとともに広く知っていただく。

2 日時・会場等

日時	令和5年8月5日(土) 13:30~16:00	
場所	岡山市北区柳町二丁目1番1号 山陽新聞社さん太ホール	
出席者	基調講演 パネリスト	文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課 教育制度改革室長 前田 幸宣氏
	コーディネーター	岡山大学大学院教育学研究科長・教育学部長 高瀬 淳氏
	パネリスト	相模原市立大野南中学校分校夜間学級 副校長 松尾 英和氏
	パネリスト	岡山市立岡山後楽館中学校長 田中 光彦氏
	司会	岡山市教育員会事務局学校教育部就学課 学校環境調整担当課長 政久 秀生

3 参加者 75名(事前申し込みと当日受付)

4 主催者あいさつ(岡山市教育委員会 三宅泰司教育長)

- ・令和7年4月に岡山市立岡山後楽館中学校に、新たに夜間学級を設置する予定。
- ・夜間中学は、多様な背景をもつ方々の「学びたい」という願いに応え、義務教育の機会を提供する、いわば学びのセーフティネットともいえる存在。
- ・夜間中学の社会的な認知度はまだまだ高いとは言えず、私たちには夜間中学の必要性や意義について、その本質を理解し、広く社会に周知していくことが求められている。
- ・本日の基調講演では、夜間中学の必要性、そして、その教育環境の整備や支援等に関して、文部科学省の取組をご紹介いただけると伺っている。
- ・パネルディスカッションでは岡山市における夜間中学の在り方について、多様な立場の皆様からご意見をいただく予定。
- ・本日のシンポジウムが、皆様方にとって、夜間中学への理解を深めていただく、良い機会となるとともに、さらなる周知につながっていくことを願っている。
- ・本日のシンポジウムの開催にあたり、ご多忙のなか講師、コーディネーター、パネリストをお引き受けくださいました皆様をはじめ、関係者の皆様のご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

5 岡山市立夜間中学について(就学課 学校環境調整担当課長 政久 秀生)

・岡山市立夜間中学設置基本方針を教育委員会の就学課のホームページに公開している。

- (1) 開設時期 令和7年4月
- (2) 設置場所 岡山市立岡山後楽館中学校に夜間学級として開設
- (3) 目指す学校像
 - 「多様性」を尊重する学校
 - 「安心」して学べる学校
 - 「挑戦」できる学校
- (4) 入学対象者
 - 義務教育の年齢を過ぎた人
 - 中学校を卒業していない人、または不登校などの理由で十分に学ぶことができなかった人(外国籍の人も可能)
 - 岡山市に住んでいる、または勤務している人(岡山市と協定を結んだ市町の人も可)
- (5) 入学時期 4月入学を基本とし、随時入学も可能。
- (6) 修業年限 3年間が基本(原則として最長6年まで在籍可能)
- (7) 授業について
 - 1日4時間授業で1コマ40分
 - 月曜日から金曜日までの週5日の授業
 - 授業は午後5時30分ごろから午後9時ごろまで
 - 昼間の中学校と同じ教科を学習
- (8) 授業日 1年を2つの学期に分け、夏休みや冬休みなどは他の中学校と同じ
- (9) 費用 授業料や教科書に費用はかからないが、勉強に使うノートや鉛筆、学校行事などには実費が必要。

・令和6年度には入学説明会と生徒の募集を行い、令和7年4月から入学者を受け入れる。

・夜間中学に関する窓口を設置。お気軽にお電話を。

6 夜間中学をテーマにしたドキュメンタリー映画(森康行監督「こんばんはⅡ」)を上映

7 基調講演

夜間中学の必要性と文部科学省における取り組みについて

講師：文部科学省教育制度改革室長 前田幸宣 氏

資料「夜間中学の必要性と文部科学省における取組」に従って説明

- 1 夜間中学という学びの場の意義
- 2 夜間中学の現状と、設置検討の状況
- 3 夜間中学の必要性(令和2年国勢調査の結果など)
- 4 夜間中学設置促進に関する文部科学省の主な取組

8 パネルディスカッション

テーマ：岡山市における夜間中学の在り方について

・まずは神奈川県の実践をご紹介いただく。

【相模原市立大野南中学校の実践紹介】

- ・ 昨年4月に様々な人たちの支援のおかげでようやく開校できて1年ちょっと。
- ・ 全国にはたくさん、夜間中学がありその様子は様々。今勤めている学校の様子をお伝えする。
- ・ 生徒の皆さんには自分らしい生き方をぜひ実現していただきたいと願っている。そのためには力が必要。その力を見つける学習機会を提供するというのが大きなコンセプト。
- ・ 基本的に、日本語は取り出して勉強をしていない。日本語がわからない人も一緒に音楽も数学もやるというのが基本。
- ・ 授業が始まる1時間前に個別に勉強したり、くつろいだりできる。先生にわからないことを聞いたり、日本語を学んだり、勉強をしたりしている人もいれば、みんな話をしていたりしている人もいる。
- ・ 規模は現在27名、一年生が12名、二年生が15名ということで、外国籍の方と日本人の割合は半々ぐらい。年代は10代から60代が通っている。
- ・ 授業に時間を割いているので校外学習はほとんどない。

相模原市の取組実践例を踏まえて「岡山市における夜間中学校のあり方について」をディスカッションテーマとして進めていく。

- ・ 夜間中学ということを知らなかったら、すごくちゃんとしている中学校の取組に見えた。普通の昼間の学校を、夜間で「ちゃんとやっている中学校」という印象。
- ・ 岡山でも多様性を重視している。ルールや生徒への学習支援対応としていろんなことをしていかなければいけない。
- ・ 神奈川にはすでにたくさんの自主夜間中があり、一人一人に合った勉強に個別に対応している背景があっても、中学校の内容を先生がきちっと学習指導要領に基づいてやれるのは、公立だろうというのが基本方針。
- ・ 大野南中学校分校は併設型なので、特別教室とかはもうすでにある、それも普段使う教室の間近にあるということで、そういった可能性についても、受け入れが十分可能。

テーマ | 多様性、個別最適化、一人ひとりに合った教育であるのは間違いない。その人自身に関わっていくという意味合いで考えた場合には、どういったことに注意していくべきか。

- ・多様な生徒がみんなと一緒に勉強すると、その多様性を他の生徒とシェアすることができる。これは素晴らしいこと。ただし、そのためのサポートが必要である。日本人でも自分自身の良いところを探すのは難しいので、ここは教員のサポートが大切。
- ・先生が授業でテーマや課題を与えた時に、わかっている生徒と、難しい生徒がいるのはよくあること。その支援に入るといふスタンス
- ・ずっと自信がなかった生徒が外国の方に教えてサポートすることで、ありがとうって言われてすごくうれしかった。生徒同士が学び合っている。こういうことを生かして今後、昼間の方の学校での協働的な学びにも大変力を入れていく。協働的な学びができることは、お互い人間関係が非常に良くなるものと思う。相乗効果で学び、連携していけば、良い学級・学校になるので今後参考にして行きたい。
- ・一人一人の個別の指導をしながらも、その生徒が自分だけの学びに入っていくことも大事。学校なのでいろんな方と関わりながら、ちょうどいい案ができたなら同時に進めていきたいと思います。
- ・一斉授業に比べて、一人一人の生徒のつまずきを授業の中で把握して、横について教えるというスタイルは、昼間の学校にもすごく勉強になるだろう。
- ・得意分野をどうやって引き出していけるか、そういった教育を実現させたい。
- ・個別最適化の支援と一斉授業はなかなか一緒にならない。この二つを両立させるのがなかなか難しい。「絶対に誰一人取りこぼさないで授業するぞ」と思うと授業は簡単な内容でわかりやすくなっていく。もう少し高いレベルで勉強したいという生徒がつまらないと感じることもある。45分授業の中で、最初の30分を丁寧に易しく提供し、そして残り15分でちょっと難しかった人は先生と一緒にもう一度勉強する。またその内容を、日本語でちゃんと理解したいという生徒や、発展学習をしたい生徒には課題を与えて自分でやるっていうことに2教科で取り組んでいる。教員としては30分で一斉授業をやらなきゃいけないっていう…これはこれでかなり厳しい。

テーマ2 今の話題を続けていくが、こういう取組をしようと思うとやはり教員の役割が大きくなると思う。この点についてはどうか。

- ・先ほど行事がほとんどないという話をしたが、それはなぜかという、大体1つの授業を作るのに10時間~15時間ぐらいかけて教材を作っている。内容の精選から生徒の実態に合わせて、生きていくために必要な力って何だろうっていうのを厳選し、それを教材化していき最後にプリントを作っている。10時間で終わらないのでその時間を作るために学校行事は最小限にしている。先生がこれでわかるだろうと思って授業をしても、生徒はわかっていないことがある。また、そばに着く補助教員から「説明が早過ぎてわからない。」と指摘が入ることもある。全教員ですべての授業を「そ

れじゃわからない。」と検討して、どの先生もその授業で何をやるのかを把握するようになっている。

- ・授業は難しい。「(今はできていなくても) こういう授業をしたい。」と思える教員に夜間中学の職員であって欲しいと思うが、多分それは昼間も同じ。学校行事の時間を最小限にして、教材研究をする時間を確保するというのが学校全体の方針。一人一人の個性に寄り添った考えができる先生は魅力的。令和7年4月に向けてこれからどんな具体の生徒が入学してくるかが浮かび上がってくると思うので、そこも踏まえて、教職員の資質を向上させたい。目指す学校像ということで、多様性を尊重できる学校、安心して学びの挑戦ができる学校、このビジョンをしっかりと共有できる先生方と一緒に仕事をしていきたい。それは昼も夜間も同じ。そうした意味を知る先生には、働きやすいと思う。

テーマ3 そうなると研修とか、大学の養成にも影響してくる。研修についてはどのようにしているのか。

- ・まず人間として、他者を尊重できる人。これは絶対だと思う。生徒には考えもあり、様々な人生経験もあり、そこにリスペクトできるような資質がすごく大事。夜間中学で勤めることによって磨かれていく部分がある。昨年度の研修では「やさしい日本語」の研修や、外国人の置かれている状況を勉強した。ハローワークの紹介者、福祉、高齢者の就職の部門の方々に来ていただいた。どういう就労支援、サポートができるかっていう視点、ここまでやるのかと思われるかもしれないが、実際そういう生徒がいるので、そういうことも含めて勉強したい先生方が、しっかり生徒理解をして授業や指導に反映させていこうとしている。夜間中学に来る生徒たちが多様であるということが原点。誰も取り残さないという大きなキーワードがあるので、誰かがそれを軽視していると「先生それでいいの？あの人気持ちになってみようよ。」ということ職員で共通理解しながら進めている。
- ・国としては、学校の先生方が働きやすい環境を作るために、もちろん法律上必要な定数は措置している。スクールカウンセラーが昼間の方に配置され、夜間中学の方はほとんど月に何回かしかないとか、日本語教育だと、日本語を教えたことがない先生方は自分で生徒の教材を使って勉強しているが、そこはプロの指導補助者を配置してもらおうとか。そのための予算とか環境制度を進めていくのが文科省の仕事。
- ・別室の日本語指導を行わず、始業前の自学の時や週に1時間の「きずなタイム」で日本語を勉強する方もいる。最大限駆使しているのがICT翻訳機。これを使いながら同時にスキルを取得するっていうのを目指している。初期の頃は3台それぞれ音声入力で、私が話した言葉がタガログ語とかタイ語とかになり、生徒は自分の言語で表現する。すごい誤訳もあったりしてなかなか難しい。失敗もあり、できるだけ減らす

ようにしている。

- ・挑戦したことが夜間中学でも生かされるし、他の小中学校へも波及効果があるのではないかと思う。昼間の学校と夜間中学の勤務の往還といったサイクルも考えられる。こういう点が夜間中学発の部分で教育が良くなっていくところ。
- ・岡山市でもこういったディスカッションに集まってもらい一緒に考えていきたい。

テーマ4 広報ってということに関してはいかがか。こういうイベントやコミュニティとの連携とか、広報について何か考えは？

- ・夜間中学を知らない方が多い。国はホームページに載せるとかだが知っている人しかアクセスできない。そもそも知らない人がホームページを検索するわけじゃないので何の意味もない。
- ・やはりポスターとか動画を、皆さんが使っている駅やバス停とか、そういったところに掲示をする。
- ・今日のこのイベントについても、新聞社が報道すると見つけやすい。プレスの方が大きいと思うので、イベントをするときはセットで行動していけば広がっていくと思う。
- ・駅前に横断幕をとりつけたりしたがなかなか難しかった。個人的にスーパーマーケットにチラシを持ち込もうかなと思った。自分でできる範囲としては、かかりつけの床屋さんに入れていただいたが、行政と力を合わせたい。あと、ここにおられる皆さんのような方々がすごく大事。
- ・認知を上げるのは難しいと正直思う。これまで教育委員会を中心に、認識を広めてきたかなと思うがまだまだ届いてないところもある。まずは継続すること。かなり時間がかかる。ここにお集まりの方々が、周りに伝えていただくといった浸透も大切。
- ・岡山後楽館中学校に令和7年4月に入学して来られる生徒が安心して学べる場所だと思っていただけるよう準備をしていきたい。少なくともここに来ていらっしゃる方々は、夜間中学に対しての理解が深い市民の方ということ。今後、令和7年度からスタートする、岡山市の夜間中学に関して中心になっていただきたい。
- ・夜間中学が設置されることで、岡山市全体の教育に大きく貢献していく期待もある。

最後に これから岡山市に夜間中学ができることに関して、どんなことでもよいのでコメントを。

- ・国としては、夜間中学を全国都道府県に必ず一つという目標で自治体の皆さんと設置を進めている。一校できたから終わりということではない。岡山市も岡山後楽館中学校で夜9時まで授業をすると遠方まで帰れない。参加者は岡山市周辺地域のみということになる。他の県においても同じだが遠隔教育っていう可能性をどう取り入れて

いくことができるのか、或いは、いや、それでは意味がないのか。その辺の議論はこれから進める必要があると思う。

- ・私が夜間中学に関わったのは8年とか、7年前。教育委員会の立場で、夜間中学を作って欲しいという方々のお話を聞きながら設立に向けて動いた。教育機会均等法や文部科学省や教育委員会の応援を受け、おそらく東京や、大阪の夜間中学の先生方は予算もない中で生徒のために必死になっておられたと思う。それ以上に自主夜間中学の方々が何年にもわたって一生懸命支えてきた、そういう方々の思いを、行政も一緒にやっていくべきだという思いがあった。皆様方と教育委員会が力を合わせて、取り組んでいくべき。
- ・職員も生徒も、夜間中学に来られてよかったとみんなが思っている。すごく大変だが、いい学校を作っていただきたいと思う。
- ・岡山後楽館中学校は受験をして入学できる学校。入学してくる生徒は様々な事情をもつ。同じく多様性を大事にする夜間中学の誕生を私自身楽しみながら、昼間の学校への相乗効果も視野にこれからしっかり考えていきたい。令和7年4月まであと1年半あまりなので1人でも多くの方に知っていただいて、そして来ていただいた生徒に来てよかったと言っていただけのような、安全安心な学校を準備していきたい。
- ・短い時間の中でいろいろお話をいただき、岡山市の夜間中学について考えていく充実した時間になった。大学としても夜間中学設置に向けてぜひ一緒に考えたい。